

平成 25 年度 インクルーシブ教育システム構築モデル事業 成果報告書
【インクルーシブ教育システム構築モデル地域（交流及び共同学習）】

法人名	学校法人聖坂学院 聖坂養護学校
指定したモデル地域名	横浜市中区

概要

モデル地域の構成（平成 25 年 5 月 1 日現在）

モデル地域 （学校設置者）の内訳	学校数 （学校種別）
横浜市教育委員会 （中区のみ）	小学校 9 校、中学校 5 校、高等学校 2 校
私立	小学校 1 校、中学校 5 校、高等学校 5 校、 特別支援学校 2 校

【事業概要】

1. モデル地域の特色（特別支援教育に関する事項）

当モデル地域の交流及び共同学習は、小学校の全校行事に、特別支援学校小学部が参加したことから始まった。小学校では特別支援学校の活動をまとめたビデオや写真をとおして障害理解教育に取り組み、学習発表会に特別支援学校の発表も組み入れるなどの交流を行ってきた。その後、徐々に年間を通じた交流及び共同学習の形ができあがってきたところである。

双方の教職員の綿密な事前打合せや準備に基づいて、長期にわたる交流及び共同学習が継続しているのは、交流及び共同学習を通じて児童が少しずつ成長していることを地域の方や保護者の方が実感し、保護者の理解が進んできていることも大きな要因であるとする。

2. 取組の概要

【モデル地域内における取組】

平成 25 年度は、学校近隣の小学校 3 年生との年間をとおした交流及び共同学習を行った。小学校 3 年生は、春に特別支援学校からのオリエンテーションを受け、その後、クラスごとに特別支援学校を訪問し、リズム運動を特別支援学校小学部の児童と楽しんだ。秋には一日交流でクラスごとに特別支援学校を訪問し、ペアを組んだ児童と一緒にリズム運動、ゲーム、賞状の交換、食事、発表などを行い、長時間の交流及び共同学習にも取り組んだ。冬には、特別支援学校小学部の児童が小学校を一日訪問し、小学校児童の企画によるリズム運動やゲーム、パネルシアターの発表などに参加し、クラスで給食と一緒に食べ一日を過ごした。

合同での活動や発表・鑑賞会などを通じて交流を深め、授業時間の中だけではなく、定期的に手紙や絵を交換するなど、日常的に交わる機会を設定することもできた。

小学校の児童の感想文からは、障害のある者に対する気配りの大切さや、自分ができるサポートが何かを考える姿勢が見られるなど、この1年の活動をとおした児童の成長が感じられた。また、特別支援学校の保護者アンケートには、交流及び共同学習後の児童の様子と今後の交流の取組への期待が書かれるなど、交流及び共同学習に対する関心の高さがうかがえた。

交流及び共同学習に関するケースごとの研究協議の中では、集団参加が難しい児童への教員の対応方法、児童同士の関わりを増やすための方法、教員の関与の見極めなどについて意見交換が行われた。交流及び共同学習後の児童の成長を示す作文や保護者のアンケートなどで得られた情報を積極的に活用し、パンフレットに掲載して発信するなど、理解啓発に役立てることの必要性などが提案された。

個別の指導計画を作成する際には、児童が考えてくれた企画を大事にして、そのアイデアを可能な限り多く取り入れられるように、また集団参加が難しい児童のためのスペースの確保などにも配慮しながら、双方にとって有益かつ充実した交流及び共同学習になるように工夫した。

3. 成果及び課題

【成果】

平成25年度の交流及び共同学習をとおして改めて確認できたことは、児童同士が互いを強く意識しながら、思いやりの心、想像力、自分なりに編み出した配慮の工夫などを結集して活動に取り組むことで、障害のある者への接し方や障害ゆえの困難さを理解し、共感できるようになってきたことである。

小学校の児童による一日交流の感想の中には、お互いが温かい気持ちで満足感をもって終えることができ、また一緒に過ごしたいという強い希望も見られるなど、人間的に大きく成長した姿を確認することができた。

小学部の児童も交流が大好きで、同年代の児童と接する学習意欲が喚起され、社会性やコミュニケーション力を獲得するための大きな動機付けとなっている。学習支援ツールや適切な支援が加われば、学習意欲と能力の更なる向上が期待できる。

交流及び共同学習をとおして、特別支援学校と小学校の教員同士が特別支援教育の大切さについての意識を共有し、連携体制と相互理解の上に交流及び共同学習が継続できていることも、地域の特別支援教育を推進する上では非常に重要である。

【課題】

研究協議の反省会では、それぞれの保護者に対して交流及び共同学習の意義の説明がいまだ十分でなかったことが報告された。障害のある者に対してどのように接すればよいのかといった子供らしい疑問に保護者として適切に答えられなかったという意見もあり、保護者に対しては学習の計画内容だけでなく、交流及び共同学習の意義や実践の積み上げによって期待できる児童の成長についても踏み込んで説明していく必要性を強く感じた。特別支援学校の保護者に対しても、社会性の育ちとの関連性や将来の社会生活に向けた地域との関わりの大切さなどを丁寧に説明していくことが必要という課題提起もなされた。こうした反省も踏まえて、啓発パンフレットを活用した理解啓発なども、計画の中に組み入れていきたい。

これまでは、特別支援学校小学部と小学校3年生の交流という枠組みでの交流及び共同学習であったが、次年度は特別支援学校、特別支援学級及び通常の学級間での幅広い交流及び共同学習の展開や、近年のICT機器の技術的進歩も踏まえてweb会議システム等を活用した取組なども検討して、これまでとは違った切り口での可能性も模索していきたい。